

令和 2 年度決算概要説明書

令和 3 年 8 月 3 1 日

令和2年度の一般会計及び特別会計並びに公営企業会計の決算の認定をいただくに当たり、決算の概要を申し上げます。

【 総 括 】

全国的に景気は緩やかに回復しているものの、人手不足や高齢化の影響などもあり、依然として厳しい状況が続いている中で編成した本市の令和2年度一般会計当初予算は、「テイク・アクション！対話と融和で未来を拓く」を市長経営方針に位置付け、財政健全化に向けた取組を着実に進めつつ、公約に掲げた「未来を拓く取組」の3本柱である「みんながつくる伊東市」、「みんなが楽しい伊東市」、「みんなが暮らす伊東市」に係る事業の一層の進展を目指し、市民の皆様からいただいた声を基に、事業の選択と集中、洗練と創設を行う中で編成いたしました。

歳出においては、サマーレビューで見直した事業費を予算要求額の上限とする中で、はじめようITO新生活応援事業や移住定住促進事業を始めとした人口増加策、伊東オレンジビーチ景観整備事業やデジタルマーケティング事業などの観光施策、まちなかにぎわい創出事業やビジネススクール事業などの地域経済の活性化策、長年の懸案であった新図書館の建設に向けた基本構想策定事業、市民運動場人工芝生化事業及び東京オリンピック・パラリンピック関係事業などに予算を重点的に配分することとしました。

その結果、一般会計の予算規模を274億8,000万円と、前年度を4.0%上回る積極型の予算を編成いたしました。

その後、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、全国に緊急事態宣言が出されるなど、状況は一変し、緊急的に新型コロナウイルス感染症対策として、68億9,045万5,000円にも及ぶ特別定額給付金給付事業や感染症予防対策事業、市内の中小事業者を支援する新型コロナウイルス感染症対策中小企業等応援給付金などのコロナ対応の補正予算に加えて、地方交付税の増額や介護保険事業等社会保障関係の特別会計に対する繰出金の増額などの通常の補正予算など、12回にわたる補正を行い、最終予算規模を369億6,068万6,000円としました。

執行に当たりましては、常に国県の動向や経済情勢を注視しつつ、効果的・効率的な執行に意を注ぎ、山積する課題に積極的に対応し、新型コロナウイルス

ス感染症に対しても、対話を基に市民の皆様との融和を図る中で、万全の対策を講じるとともに、本市の発展に向け努力してまいりました。

以上、令和2年度の予算編成から決算までの背景を申し上げます。

引き続き、決算の内容につきまして説明します。

一般会計における歳入決算額は、360億3,541万7,000円で、対前年度比29.4%の増となり、歳出決算額は351億6,831万3,000円で、執行率は95.2%、対前年度比28.7%の増となりました。

歳入歳出差引額は8億6,710万4,000円となり、商工業振興補助事業や生活環境向上対策事業などの繰越明許及び事故繰越しにより、翌年度へ繰り越すべき財源1億9,501万5,000円を差し引いた実質収支額は、前年度を94.3%上回る6億7,208万9,000円となりました。

歳入決算につきましては、自主財源では、大きな比重を占める市税が前年度収入額を2.9%、また、ふるさと伊東応援寄附金が減少したことにより寄附金が対前年度比30.4%下回り、繰入金が対前年比で45.6%増加したものの、自主財源全体では、対前年度比3.1%の減少となっております。

依存財源では、特別定額給付金給付事業や新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業などより、国庫支出金が対前年度比で195.1%、消費税率の引上げに伴い地方消費税交付金が対前年度比で22.8%と大幅に増加したことにより、依存財源全体で、対前年度比で66.1%増加しており、歳入全体をみても、対前年度比で29.4%と大幅に増加しております。

歳出決算につきましては、経常経費において、物件費が4.9%、公債費が2.9%減少しているものの、特別定額給付金給付事業などにより補助費が326.9%、会計年度任用職員制度の導入や定年退職者の増加により人件費が15.0%、障害者自立支援給付費の増加などにより扶助費が対前年度比で2.1%増加しております。

投資的経費につきましては、普通建設事業において、小中学校空調設備設置事業や看護小規模多機能型居宅介護整備事業補助金などが完了し、新型コロナウイルス感染症対応として、市民運動場人工芝生化事業などを見送ったことなどから、対前年度比で18.8%と大きく減少しております。

また、新型コロナウイルス感染症が広がる中においてでしたが、私が公約に掲げた「未来を拓く取組」の3本柱を実現するため、地域タウンミーティングや「市長への手紙」、未来ビジョン会議を開催し、その中で市民の皆様からいただいた御意見に対し迅速に対応するなど、ボトムアップによる市政運営にも取り組んでまいりました。

さらに、新型コロナウイルス感染症による市内経済の落ち込みを防ぐため、プレミアム付商品券事業や県民宿泊推進事業を実施するとともに、中小企業等応援給付金や経済変動対策資金貸付金利子補給などにより、事業者支援、雇用の維持に努めました。

以上が、一般会計歳入歳出決算の概要であります。

本市の財政は、職員の人件費を含むすべての事務事業の見直しなど、これまで一貫して継続してきた様々な改革への取組により、適正とされる規模の黒字を確保していることから、健全化判断比率や経常収支比率、実質収支比率などの財政指標も含め、その健全性は維持できているものと判断しております。

一般会計及び特別会計並びに公営企業会計の決算の概要につきましては、引き続き、担当部長から説明いたします。

私は、これまで「有言実行！！みんなとともに」を基本理念とし、「伊東の魅力を発信し、文化を高め、観光の振興と産業の育成によって、みんなが夢を形にできる未来を拓く」施策の推進にまい進してまいりました。現在、新型コロナウイルス感染症という、これまで経験したことのない危機に直面しておりますが、市民の皆様を第一に考え、今後、ワクチン接種が進み、新型コロナウイルス感染症が終息した後には、「新しい伊東スタイル」の構築に挑戦し、市民のため、本市の発展に努めてまいりたいと存じます。

最後になりましたが、本決算につきまして、認定いただくようお願い申し上げますとともに、本決算の意義を真摯に受け止め、市民の皆様や議員各位からの貴重な御意見、御指導をいただきながら、最善の努力をしてまいりたいと存じます。